



# 星魂

2026年2月発行

東京都渋谷区富ヶ谷2-10-7 TEL.03-3467-8111 発行人:金谷 義孝



東海大学付属望星高等学校同窓会会長 **金谷 義孝**

令和七年十月に高市政権が発足して、予算委員会等の質疑応答も面白く、国政に興味を示している若者が多くなっているように思います。この原稿を書いているときも、令和八年二月の総選挙後の政権がどうなるのか、興味津々のこの頃ですが、皆様はいかがお過ごしですか？

今年も同窓会会報を通じて、こうして皆さまとご挨拶できることを大変うれしく思います。望星高校を巣立ってから、すでに何十年という月日が流れた方もいれば、まだ卒業して間もない方もいらっしゃる事でしょう。それぞれの場所で、それぞれの人生を歩まれている事と思いますが、「望星」という共通の原点が、今も私たちをつないでくれている事を改めて感じます。

望星同窓会には自校の総会・懇親会だけで無く大きな流れがもう一つあり、東海大学高等学校連合同窓会と言います。全国にある附属高校の11校が参加して50年間続いています。毎年交代で幹事校が主催し、九州から北海道までの附属高校同窓会で総会・講演会・懇親会が開かれます。昨年は福岡高が幹事校で行いました。その詳細は参加した役員の記事・写真が掲載されていますので割愛致します。

今年望星高校が幹事校で高輪台高校さんと共同で行います。望星高等学校同窓会は単独で幹事校を行ったことが有りません。その理由としては資金がなかった事でした。私の在学中は同窓会役員とも仲が良く、生徒会会議終了後は内木先生の自宅や飲みにもよく誘われました。私が卒業して同窓会入りしたのと、ほぼ同時に連合同窓会が発足したのですが、事務局長としてお預かり同窓会資金は10万円位と、運営するには足りないものでした。望星同窓会年会費も終身会費500円と安く、これでは活動費も無いのは仕方ない事でした。連合同窓会年会費も他校の半分に免除して頂いたり、役員参加費も1名分は相模高校さんから負担して頂きました。他の同窓会さんにも色々ご迷惑をかけましたが、それでも望星高校同窓会は松前重義先生のFMを利用し、誰でも高校で学べるようにと掲げる建学の精神に通じる事から、各校から連合同窓会に参加する事を切望されました。

望星高校を愛されていた松前重義先生は昭和60年頃までの卒業式には毎回参列されていました。昭和52年の私の卒業式の時、総長賞を頂き、握手をしていただきましたが、柔道で鍛えた分厚い手の感触は今でも忘れておりません。十数年前も高輪台さんと共同幹事校を行ったことが有りましたが、望星学塾から日光との計画でしたが、羽田空港から望星学塾に向かうバスが交通渋滞にはまり、講演も短縮して昼食もバスで食しました。次の日の日光見学は土砂降りの最悪の天候でした。よほど日頃のおこないの悪いものばかりの同窓会主催かと呪ったものです。今年の連合同窓会もリベンジとばかりに、望星学塾からはじまり松前重義先生のお墓参りと松前先生と縁の深い内村鑑三先生の今井館聖書講堂巡りのコースを企画しています。詳細は会長会議を経て決定しますが、案内や運営するためにも多くのスタッフが必要です。プロジェクトチームを組みますので、是非、皆様の力をお貸しください。



# 通信制高校の歴史と現状について

校長 吾妻 俊治



昨年度の「星魂」で、全日制・定時制高等学校は年々生徒数を減少させているのに対し、通信制高校

は学校数、生徒数を増加させているとご紹介しましたが、実際に2025年度の通信制高校の生徒数は30万5197人で、「高校生の10.4人に一人が通信制の生徒」という時代になりました。特に私立の通信制高校生の増加が顕著です。(2025年12月25日発表 文部科学省「学校基本調査」による)通信制高校の生徒が増え、様々な通信制高校が誕生する中で、「通信制高校はどうあるべきか」が議論となっており、昨年度の星魂では、私立通信制高校の先駆けとして60年以上歩み続けている本校が、今後どの様に進むべきか、開校当初の教育理念を見つめ直すことが必要ではないかと思ひ、卒業生の皆様に内木先生の文書をご紹介しました。

今回は私立通信制高校の歴史的経緯から見た現在の実態や、公立の通信制高校との違いについてご紹介したいと思います。

勤労青年へ学習機会を提供することをルーツとする通信制課程は、仕事の合間を利用して学びに向かうことが前提であるため、スクーリングは休日である土曜日や日曜日に設定され、疲れていても、就業後などの限られた時間に学習に取り組むケースがほとんどでしたので、年月を掛けて高校卒業を目指すのが一般的で、1988年まで修業年限は4年以上でした。

公立の通信制高校の多くは、1950年代より教育活動を展開しており、勤労青年を対象として、週二回程度のスクーリングと自宅でのレポート作成、そして一部はNHK講座の視聴などを利用するといった学習方法が、比較的長い期間変わらずに行われ、その後少しずつ、生徒の状況の変化に応じて、教育システムを改善してきたという経緯があります。

それに対して私立の通信制高校の大半は、通信制の修業年限が三年以上に変更された1988年以降に設立され、開校当初から勤労青年よりも、全日制の代替として通信制を選択した高校生年代の生徒が多くを占めていました。したがって生徒は労働のために学習時間が制約されている訳ではなく、出来れば全日制と同

じように、毎日のように学校に通いたい。或いは毎日通うのは負担が大きいが、週に複数回は通学できるようにしたい。合宿型のスクーリングのように集中して行いたい。可能であれば全日制と同じように三年間で卒業したい。資格取得やスキルアップに繋がるような専門的なことを学びたい。卒業後も興味のある方面に進みたいといった様に、登校回数にバリエーションをもつ「通学タイプ」の通信制高校や、美容やアニメ・ダンス等々「専門性」の高い学びが可能なコースなど、様々な学びのスタイルを持つ通信制高校が誕生しました。このように私立通信制高校は、生徒の希望に沿うかたちでの、様々な教育方法を行う学校が新たにつくられました。

全日制と比べ通信制高校は、柔軟で幅広い規定のもとで各校が設置されていますので、比較的自由度の高い教育方法が可能です。私立通信制は草創期から、技能連携や企業内教育など、公立通信制高校とは異なる特色を持つ学校が多くありましたが、画一的な傾向の強い全日制の高校において対応が難しい多様な生徒が、多様な学習方法や学校生活をデザインしている通信制での学びを求めて入

学する傾向が顕著となってきました。また一万人を超えるような、大規模な定員を有する広域通信制高等学校が誕生しました。複数の通信制高校やサポート校のテレビCMをよく目にするのがあります。インターネットの広告等を積極的に活用する広域通信制高校も数多くあります。「通信制高校」の存在が、社会の中で以前より近い存在になっているのではないかと思います。

東海大学付属望星高等学校は、働きながら学びたいという生徒のための学校から始まった歴史ある学校ですが、時代の変化の中でも、通信制高校教育のオピニオンリーダーとしての役割を担っていると自負しています。在校生の皆さんの真摯な姿勢。熱心な教職員。良き伝統を築き、応援を続けて頂いている同窓生の皆様のお陰です。

同窓生の皆様におかれましては、これからも、変化を恐れず新たな教育の在り方を追求していく母校をご支援頂ければ幸いです。



# ◆◆◆ 連合同窓会に参加して ◆◆◆

山田 弦太郎

昨年11月22日(土)から23日(日)にかけ、当番校である福岡高校の主催のもと、令和7年度の連合同窓会が開催されました。望星高校からは原澤副会長をはじめ4名が参加し、各付属校同窓会の方々と親睦を深めました。

懇親会などの場で、ほかの付属校の方々と意見を交わす機会がありました。各校とも若い世代へのバトンタッチ、つまり会の新陳代謝について苦労されている様子でした。

筆者にとってこうした交流は、初めて連合同窓会に参加した若手という立場から(若手といっても今年度の卒業生より十歳も年上で、若者を自認できる年齢の限界に近いアラサーですが)、これからの同窓会のあり方について考える良い機会になりました。そこで、連合同窓会期間中のいろいろな方々との意見交換の内容を、筆者なりに総括してみます。

少数の親密な相手との全人的なつながりよりも、流動的・部分的な人間関係を好む——現代の若者の人付き合いに対する姿勢は、このように説明されることがあります(筆者も心当たりがあります)。こうした姿勢は「人間関係が希薄」「コミュニティに対する帰属意識が低い」と評

されることが多いですが、一方で「TPOやライフステージに合わせて人間関係の濃淡をうまく調整している」と肯定的に見られる向きもあります。

こうした背景をもつ若者には、愛校心・帰属意識といったコンセプトは響きにくい。従来の「同窓会」のイメージは、若者には「しがらみ」に映ります(中に飛び込んでみるとじつは堅苦しくないのですが、外から見たときの一人歩きした印象として、そのように映ることはよく理解できます)。また、若者世代は情報収集が容易な世界に慣れているので、「入ってみないと、あるいは積極的に関心をもたない」と何をやっているのか見えてきにくい集まりに顔を出してみることのハードルも高いでしょう。現状、同窓会にこうした側面があることは否めません。実際、筆者も同期の集まりで「同窓会って何?」といった反応をされることがあります。

これからの同窓会と卒業生との関わり方を考えるときには、こうした世代による文化的背景(というと少々大袈裟ですが)の違いを前提とする必要があると感じます。たとえば、活動の様子が見えやすく、いろいろな立場やライフステージに合わせて気が向いたときに接点もちやす

い、サードプレイス的な集い方の提案。たとえば、同級生のLINEグループなどを通じて人から人へイベントの連絡が届くような仕組みの整備。連続と続いてきた同窓会のバトンを次につないでいくために、集いのかたちにもアップデートが必要なのではないか——このようなことを、期間中、さまざまな方と話していました。

いろいろと偉そうなことを書きましたが、言うは易しで、ここまで書いたことを実現に移すことは、簡単ではありません。先輩方と、新しく参加してくれた年次委員の皆さんと連携して、引き続き、これからの同窓会のあり方を模索していきたいです。



# 『ポストコロナ』の中で

渡辺 礼子 (理科)

新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同様の扱いになってから、まもなく三年を迎えます。ニュースなどで「コロナ」という言葉を耳にする機会は減りましたが、社会のあちこちに当時の名残は残り、「アフターコロナ」というより「ポストコロナ」と呼ぶ方がしっくりくるように感じます。望星高校も例外ではありません。

校内では、年間を通してマスクを着用する生徒や教員が見られ、全教室では二酸化炭素測定器が常時稼働しています。消毒用備品も引き続き常備され、冬には入口での体温測定や、各教室での加湿器の運転が行われています。生徒も教員も、お互いの健康に気を配りながら日々を過ごしています。

一方で、以前よりも活動の幅が広がり、警戒が緩和された場面も増えてきました。建学祭(文化祭)では、校舎内外で模擬店が並び、活気ある雰囲気に戻ってきました。

特に今年度(2025年度)の建学祭で印象的だったのは、文化部が一つの教室を使って作品展示や研究発表を行えたことです。昨年度までは、生徒参加型の企

画を行う場合のみ教室を使用でき、四つの部が時間と空間を分け合っていました。作品展示は廊下が中心でした。しかし今年度は、科学部・家庭科部・芸術文化部が一つの教室で展示を行うことができました。なかでも芸術文化部は、折り鶴で大きな樹を制作し、教室中央に展示して多くの来場者の目を引いていました。

また、新校舎では廊下の壁への掲示が禁止されていますが、今年度は階段の手すりや蹴上げ(縦面)を活用し、各団体のポスターを掲示しました。これらは案内としてだけでなく、建学祭全体の雰囲気を盛り上げる役割も果たしていました。

同窓会は毎年、建学祭でフランクフルトと卒業生が作ったリンゴジュースを販売しています。どちらも大変好評で、特にフランクフルトは「美味しいのにすぐ売り切れてしまう」と教員の間でも話題になります。「やつと食べられた」「今年も売り切れてしまった」「予約しておいてほしい」など、毎年さまざまな声が寄せられます。

昨年度の建学祭の後に、「フランクフルトはどこで仕入れているのか教えてほしい」という依頼を受け、同窓会の方に問

い合わせたところ、「同じものを購入して家で焼いてみたが、建学祭で同窓会が調理したの方が美味しかった」との嬉しいお言葉をいただきました。皆さんもぜひ、建学祭で同窓会「美味しい美味しい」フランクフルトとリンゴジュースを味わってみてください。建学祭は原則、毎年10月の最終日曜日に開催されます。生徒たちも張り切って準備していますので、生徒・教員一同、心よりお待ちしております。

最後に、春は別れと出会いの季節です。今年度も定年を迎えられる先生がいらっしやいます。理科の飯塚浩先生と国語科の神田秀樹先生です。お一人にお会いしたい場合は、今年度3月11日(水)までに望



星高校へお越しく下さい。出張等で不在の場合もありますので、事前に職員室(03-3467-8112)へご連絡いただくことを強くおすすめします。他の教員に会いたい場合も、ぜひ事前にご連絡ください。せっかく来校しても会えなかったというのは、あまりにも残念ですから。

## 東海大望星高校で 過ごした三年間

神戸 克彰

東海大望星高校で過ごした三年間を振り返ると、時間の流れの速さに驚かされると同時に、ここで得た経験の一つひとつが、今の自分を形作っているのだと実感します。入学当初、私は通信制という学び方に対して不安を抱いていました。自分のペースで学べる自由さの一方で、自己管理が求められる環境に本当に適応できるのか、続けていけるのか、心のどこかで迷いがあつたからです。しかし、今こうして卒業の日を迎え、あの時の不安は確かな成長へと変わったのだと胸を張って言えます。

望星高校での学びは、単に教科書の内容を覚えるだけではありませんでした。レポート提出やスクーリング、オンライン授業など、多様な学習スタイルに触れる中で、自分で計画を立て、実行し、振り返

るという習慣が自然と身につきました。特に、締め切りに追われながらもレポートを仕上げた経験は、責任感や粘り強さを育ててくれました。時には思うように進まず、投げ出したくなることもありましたが、その度に先生方の丁寧な指導や励ましの言葉に支えられ、前に進むことができました。

また、この学校で出会った仲間たちの存在も、私にとって大きな力となりました。通信制という特性上、年齢も背景も異なる多様な生徒が集まっています。スクーリングで顔を合わせるたびに、それぞれが自分の事情や目標を抱えながら学んでいることを知り、私自身も「自分も頑張ろう」と自然に思えるようになりました。互いに励まし合い、時には悩みを共有しながら過ごした時間は、かけがえのない思い出です。

特に印象に残っているのは、進路について真剣に考え始めた二年生の頃です。将来の方向性が定まらず、焦りばかりが募っていた私に、担任の先生は「焦らなくていい。自分のペースで探していけばいい」と言ってくれました。その言葉に救われ、少しずつ自分の興味や得意なことを見つめ直すようになりました。結果として、私は進学という道を選びましたが、その過程で得た「自分で選ぶ」という感覚は、これからの人生でも大切にしていきたいと思っています。

卒業を迎える今、望星高校での学び

は、私にとって自分を知るための時間だったと感じています。自由度の高い環境だからこそ、自分の弱さや甘さと向き合う場面も多くありました。しかし、それら乗り越えたからこそ、以前よりも少しだけ自信を持てるようになりました。これから先、どんな道を歩むにしても、ここで培った主体性や粘り強さは必ず役に立つと信じています。

最後に、支えてくださった先生方、家族、そして仲間たちに心から感謝します。皆さんのおかげで、私はこの三年間を前向きに歩むことができました。東海大望星高校で過ごした日々を胸に、これからも自分らしく、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

## 近況報告

岩瀬 藍希



近況報告として、現在の学生生活について紹介します。大学に入学してから、授業や友人関係、課外活動など、多くの新しい経験を通して、充実

した毎日を送っています。大学生活は自由度が高い分、自分から行動することはもちろん、自らやることに責任感を持つことも大切であり、さまざまな活動に積極的に参加することで、日々成長を実感しています。

私は現在、ボランティアサークルに所属し、地域や人と関わる活動に取り組んでいます。このサークルでは、大学周辺の地域で行われる祭りの運営補助や、遠方の地域へ出向いて子供たちと交流するボランティア活動などを行っています。地域の祭りでは、会場の設営や来場者の案内、イベント運営のサポートなどを担当し、地域の方々と直接関わりながら活動しています。世代を超えた交流を通して、大学が地域社会とつながっていることを実感できる貴重な経験となっています。

また、遠方に行き子供たちと遊ぶ活動では、一緒に体を動かしたり、レクリエーションを企画したりしながら、楽しい時間を共有しています。子供たちの笑顔を見るたびに、自分の行動が誰かの楽しさや安心につながっていることを感じ、大きなやりがいを感じています。これらの活動を通して、人と関わることの大切さや、相手の立場に立つて考える姿勢を学びました。

さらに私は、新入生研修委員会にも所属しています。新入生研修委員会では、大学に入学したばかりの一年生が安心して大学生活をスタートできるように、さまざまなサポート活動を行っています。主な

活動内容は、一年生と先輩との関係構築を目的とした交流企画や、一年生同士が自然に友達を作れるようなプログラムの運営です。自分自身も入学当初は不安を感じることが多かったため、新入生の気持ちに寄り添いながら活動していきたいと考えています。これから始まる委員会活動を通して、新入生が大学生活に前向きな気持ちを持てるよう、先輩としてできるサポートを大切にしていきたいです。ボランティアサークルや新入生研修委員会での活動を通して、学年や学部を越えた多くの人と出会い、大学生活の幅が大きく広がりました。これらの活動は、友人関係を築くだけでなく、協力する力やコミュニケーション力を高める貴重な経験となっています。

これからも学業との両立を意識しながら、ボランティアサークルや新入生研修委員会をはじめとするさまざまな活動に積極的に取り組み、より充実した大学生活を送っていきたくて考えています。授業での学びに加え、学外や学内での人との関わりを通して得られる経験は、自分自身を成長させてくれる大切なものです。これらの経験を通して視野を広げ、大学生活ならではの出会いや挑戦を大切にしていきたいです。



# 写真部 OB・OG会 報告

令和7年連休明けの晴天の下、1年振りに写真部顧問の金子先生と5人のOB・OGが集まった。昼食を摂りながら、時間を忘れて話

に興じた。コロナ禍を経て再会を果たせたことに深い喜びを感じる。また再会を願う健康でありたいとの意欲にもなる。有難い仲間だ。

顧問が望星高校を退職されて20年と、今に続く長きにわたり写真部を牽引頂き感謝する次第である。  
※別紙は、顧問を中心に各々行われた活動記録である。(顧問資料に拠る)



昨日は(R7・5/7)楽しい時間を皆さんと共有できて本当に有難うございました。席上話題になった望星OB会について、その会合を写真部が続けてこられたのも皆さんのお気持ちがあったからこそと感謝しています。早速、ごったな資料から取り急ぎ調べたところいくつかわかる範囲でここに記します。(2010年以降で記します)

- ① 2010年10月10日 武相荘 参加11名
- ② 2010年12月28日 有志会 参加4名
- ③ 2011年11月20日 浅草寺 参加11名
- ④ 2013年3月25～26日 かんぼの湯 熱海別館 7名
- ⑤ 2015年4月25～26日 かんぼの湯 熱海本館 7名
- ⑥ 2016年12月18日 新宿御苑 8名
- ⑦ 2017年6月3日 有志会 代々木上原・武蔵屋 4名
- ⑧ 2018年6月17日 有志会 代々木上原 屋号不明 5名
- ⑨ 2020年10月18日 有志会 京王多摩川 馬車道 3名
- ⑩ 2022年3月20日 有志会 田町 8名
- ⑪ 2022年10月8日 有志・金子グループ小田急センチュリー 22名
- ⑫ 2023年6月3日 有志会 稲城炭焼き 4名
- ⑬ 2024年5月8日 新宿三平、橋珈琲 9名
- ⑭ 2025年5月7日 新宿三平、タリーズコーヒー 6名



## 第六十三回 望星同窓会総会の ご案内

新緑がまぶしい季節となりましてはいかがお過ごしですか？

久しぶりに同級生を誘って、新校舎を見学がてら同窓会総会に参加してみませんか？

懐かしい先生方や仲間たちと昔話に花を咲かせてみませんか？

懇親会はケータリングで軽食をご用意してお待ちしております。

今年も左記の卒業生はワンコイン五百円で参加できます。クラス会を開きましょう。

皆様のお出でを、先生と同窓生がお待ちしております。出席は直接かホームページから申込みください。又、近況をお知らせください。

### 記

日時：令和八年六月十三日(土)

午後二時より総会

午後三時より懇親会

場所：総会懇親会(当日表示)  
費：二千元

ご夫婦での参加三千元

三期：十三期・二十三期・三十三期・

四十三期・五十三期並びに

今年六十三期卒業生は五百円

## 編集後記

最近、参政

党の躍進がめざましく、右

傾化している話題が多く感じます。この原稿を書いているときは選挙戦真っ最中ですが、結果がどうなるか気になります。

選挙の争点でもある消費税について調べると、私の会社のベースアップを妨げる大きな要因の一つが消費税でもあるのがわかりました。これまで政府やマスコミの言うがままに、なんにも考えず納付していました。輸出企業は莫大な還付金を受け取っている事がわかり、中小企業は置き去りのままの事実には愕然としました。

今年も望星高校が連合同窓会の幹事校になりました。バスやホテルの手配やスケジュールの調整は旅行者さんに任せるとしても、参加者の接待等には人手がかかります。高輪台校さんと共同幹事校ですが誠意を込めて取り組みたいと思いますので、皆様のお力をお貸し下さい。自然体で楽しんで取り組みましょう。私たちも楽しんでやれば、参加者も楽しめるはずですよ。

東京で行きたいところや、行っていないところを調べると色々出てきますね。逆にありすぎてわからなくなりました。やはり参加者の年齢や共通のテーマ等で絞らないといけない感じです。旅行者さんは東海大学系ですので、その辺は考えがありそうなのでお任せしましょう。

